

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

勸業錄

十





2768

勸善錄卷之中

目錄

一 常陸国土佐郡新井村に民を助ぐ事

二 同郡堀新村に民を助ぐ事

三 同郡麻嶋郡常陸原村の孫を助ぐ事

四 同郡忠孝村に民を助ぐ事

五 同郡の湯屋を助ぐ事

六 同郡羽崎村に民を助ぐ事

七 同郡原田の里に民を助ぐ事

八 下総国おる郡岡村に民を助ぐ事

後三太夫などか若業子か若心れ男の

同国豊田郡吉神村の定をたぐる

同国後鴻郡恩名村の年をたぐる

同国岡田郡桶戸村のこゑを勝廉直れ事

同国神子伊貝根れをたぐる

同国版泊れをよ女ぐる

同国今高の成を弟が娘いねが事

同国目出高町れ次を勝が娘より女を嫁れに助ぐる

同国山田屋万吉かを母の

同国荒井家四屋町れをたぐる子次を勝が事

同国今高れ仙臺屋七之郎かをたぐる

同国小濱村のふを勝が事

同国古河城下れ若名屋小を勝が子かをたぐる

が事

同国の税商人を勝文ぬぐる

同国小浜村小を勝が二人れ娘途中にくる

も或男はひねくる

同国の足利屋孝を勝が婢もろぐる

同国小和泉屋忠右衛門か下男下女れ

同国の又を勝が後妻を若心れ事

● 同所の日村屋清之助が妻なり

● 同所の小西屋平右衛門が妻并娘なり

● 甲斐屋国清坂村に暮るる本村の中村屋清之助が事

● 同所の水村の清之助が事

● 駿河国沼津に宿の孝貞に男女兄弟并子孫
ありと教諭し

● 下弦国駿河に宿村に改を改つが事なり

● 同国香取に并あり其に改つが事なり

● 同所西代村に在る改つ父子並に改を改つが事なり

清助孫熱入利平次長七を有る清之助が事なり

● 同村に清男女なり

● 同所并あり其に改つが事なり

● 同所押砂村に七市を改つが事なり

● 同村のりよ女なり

● 同村に清右衛門が事

● 同所依原の里に久保屋清之助が事

勸善錄卷之中

東都

知非齋源與清文儒著

門人

赤松知則

岡常政校

一 乃陸国^{まぐ}之^{まぐ}破^{まぐ}形^{まぐ}井村^{まぐ}れ^{まぐ}者^{まぐ}が子^{まぐ}民^{まぐ}之^{まぐ}助^{まぐ}ハ十九歳
れ^{まぐ}者^{まぐ}之^{まぐ}家^{まぐ}賣^{まぐ}一^{まぐ}けれ^{まぐ}ハ人の奴^{まぐ}となりて父^{まぐ}も子^{まぐ}
もこ^{まぐ}や^{まぐ}こ^{まぐ}よ^{まぐ}つか^{まぐ}へ^{まぐ}けり。民^{まぐ}之^{まぐ}助^{まぐ}お^{まぐ}り^{まぐ}や^{まぐ}。父^{まぐ}ハ年^{まぐ}老^{まぐ}
た^{まぐ}れ^{まぐ}バ^{まぐ}る^{まぐ}家^{まぐ}に^{まぐ}ても^{まぐ}何^{まぐ}くれ^{まぐ}につ^{まぐ}けて^{まぐ}不^{まぐ}足^{まぐ}ま^{まぐ}お^{まぐ}ひ^{まぐ}持^{まぐ}て
べ^{まぐ}。我^{まぐ}カ^{まぐ}と^{まぐ}添^{まぐ}す^{まぐ}ぬ^{まぐ}せん^{まぐ}と^{まぐ}て。己^{まぐ}ガ^{まぐ}る^{まぐ}家^{まぐ}れ^{まぐ}物^{まぐ}と^{まぐ}て
け^{まぐ}こ^{まぐ}ち^{まぐ}ぐ^{まぐ}取^{まぐ}も^{まぐ}よ^{まぐ}く^{まぐ}持^{まぐ}び^{まぐ}聊^{まぐ}の^{まぐ}い^{まぐ}と^{まぐ}ま^{まぐ}に^{まぐ}縄^{まぐ}を^{まぐ}ぢ^{まぐ}い

けて。父れも家よりけりけり又父が厚恩とてけたり
孫市といふが家善達けりけりも保れいとまも縄
かひれりていふや。人はつかり多はんよまかせねか
とてさへもいせんともかたないび。この縄をだす志と
えだまひてよといひけりま。孫市もそれ志は感へん
にその縄を示して。これ民の助が深切れたまのなりと
て。答へりといはん。

③同国麻嶋郡有陸原村の孫たきつぐ子たきハ十三歳
て。ゆくきりかり。中にも。孝順もつづきとつく
里。それ代をゆて父がねおれほとむけりかく心
つくせー被にや。今いそしめたるなり。その子孫よ
るまぐみまきり家なりとぞ。

④同国麻嶋郡有陸原村の孫たきつぐ子たきハ十三歳
れきも。母よきほねて。いふと。母よいやく胎教とて
胎内より教れ。良きせしこそねさういふなり
某も心を改て孝をきこし。いへば。父母も
りきとて。良きをなすひて。いふなり。父母も理
に伏して涙を流し。これより行をいへ。ききとふと
しけり。たきも日力をあて。いふれとつかいけり
なん。

●同不忠き湯が娘もやい。産むづかよ十三歳やれど。
父母は孝をとおし。おくれ欣合のいともも母に
もとおろさるべし。何れよんを用ひけん。又
ふれるおは。及後の香かたもい。人馬れけす
とやひくせよせけりとなん。

●同不富田屋町は湯屋善哉といふのけり。世賃
律満のともなり。一が。孝志い。保かりけり。母眼病
とて。医療れ術もあたり。と。善哉三十七日け
合。一。神仏は。新て。遂に。利益と。けり。母の眼病
けりとなん。

●同不富田屋町の善哉が妻は。老母腰おけり。あ
ち。と。と。よく。介抱して。孝志い。と。お。けり。母さ
る。病人なれど。いと。屈。し。た。と。り。い。お。山。ち。ど。よ。か。ね
負。け。て。慰。め。けり。ま。と。お。目。覚。し。た。人。を。い
け。ん。が。た。め。よ。毎。夜。丑。子。ご。ろ。ま。で。い。必。火。桶。で。起。床
せ。よ。い。う。り。それ。男。い。う。り。孝。志。を。感。じ。村。長。れ
網。代。平。蔵。に。か。たり。けれ。ば。平。蔵。も。大。に。お。ど。て。や。が。て
地。に。ま。さ。し。て。賞。物。湯。の。せ。と。め。ぐ。み。に。お。さ。れ。み
けりとなん。

●同不富田の里は。善哉屋源善が妻は。孝志い。と。お。目。覚。し。た。人。を。い
けりとなん。

おくれ。父はえぐまれてひととなりーかど。いと柔和の
性質にて。孝志深かりけり。嫁人何りて富家の娘は
もいりやと。敢てうけひだ。だ。父は孝志せん
とのねがへり。さるやどといふと。父は源義経と
へ嫁ひる人何りせよ。源義経が忠したんをいふ。父
知て。父は源義経といふと。父は忠となり。貞節とまのり
ければ。まもせよ。父は何つたんをおして。よくつかく
けりといふん。

●下総国馬羽園村の林義勝。和田村の中右衛門。義勝。
三左衛門など。おほく孝貞の友なり。まりて義勝田を

町九段をかりと。呼たけり。その義勝田に。流田。義勝田などといふ
名あり。流田といふと。流田にて。水はあふれ。稲苗あふれ
たり。腐れにたり。と。義勝田といふ。土質よろ。か。水
もよく。なり。と。いふ。それ里の佐義勝。七郎義勝。伊左
衛門。義勝。角右衛門。義勝。文右衛門。新太衛門。七左衛門。
義勝。利左衛門。義勝。久義勝。佐義勝。義勝。と。いふ。
と。義勝田。おたり。けり。と。林義勝。中右衛門。義勝。三左衛門。
お。義勝田。と。いふ。と。令。せ。て。壺。年。に。今。ハ。良。田。と。なり。て。
年。と。い。れ。貢。米。と。い。ふ。なり。と。い。ふ。

●同国豊田郡吉井村の定義八。祖母母妹と。四人若に

今宵^{こんしやう}むかりハとして折^を外^{ぐわい}たりし^が。ふまかりていね
 られざりければ^{きつた}鶉^う鳴れ^るもむい^なは保^{たも}れ^いて^い母^{はは}と^と侍^{まへ}けり。
 かく孝^こ志^し深^{ふか}むくいにや。九年^{くわんねん}れる一日^{いちにち}も病^いに所^{ところ}なき
 ことありといへり。

孝心いゝ源いゝさん

 同国同田郡横曾根新田桶戸村より三ふき湯とつめのあ
 り豊田郡水俣及び冷水武々湯が併に菜種と常けり
 か。日頃よりぐくく菜種の直卑くなりぬ。或日三ふき湯と常けり
 一片より五ふき湯よりなり。菜種と常けり。時三ふき湯

かりーに。不日に卑價なりたれば。我食れるなりせ
 りとて。かの南條とかけけり。武を勝ひて。幸蒙れ
 ず。い。る卑換得はそれ時運によれり。ことなりとて。
 敢てうけひがべりて。か。や。り。ぬ。そ。そ。其。余。年。を。と。て。又。武
 を。勝。つ。に。由。て。され。を。年。に。及。て。後。世。れ。姑。も。或。く
 其。の。一。に。は。れ。菜。種。の。三。價。を。も。つ。て。とり。た。ま。ひ。け。と
 て。南。條。三。片。を。出。し。と。づ。め。一。片。を。り。か。さ。も。年。に
 利。子。を。積。た。れ。ば。今。ハ。三。片。を。な。れ。り。と。て。武。を。勝。つ
 こと。は。子。武。を。勝。つ。敢。て。う。け。ひ。が。べ。り。と。か。へ。り。け。り。こ
 又。武。を。勝。つ。る。廉。直。を。れ。む。く。い。や。今。ハ。田。畑。も。お。か。く。災

け。て。志。か。る。べ。り。農。家。と。い。ぬ。ぬ。そ。れ。賞。田。に。初。種。米。が。許
 と。年。に。夢。ま。に。お。く。り。て。い。ふ。や。う。和。ま。い。り。の。四。も
 かね。ば。も。ぬ。ひ。る。今。より。つ。と。め。て。再。け。田。を。買。ひ。ど
 した。ま。く。三。年。初。め。が。賞。は。り。一。時。れ。直。より。減。せ。り。と。も。ゆ
 ー。も。ぬ。ひ。べ。り。つ。と。め。た。ま。ひ。と。い。ふ。あ。け。り。と。な
 ん。

④ 同国 神子伊貝根れ長者とつ。世はいま。と。字。せ
 られて。い。み。づ。に。荒。れ。と。れ。な。り。それ。に。放。陽。に。て。唯
 嘩。に。論。を。ぬ。と。思。ひ。た。と。ん。か。た。な。り。朋。友。れ。盡。と。并。根
 介。り。て。小。谷。三。志。が。と。へ。み。と。や。れ。と。い。ひ。と。若。心。と

たゞお助けなれ。世に助さるゝものやあるゆゑ。
他の五人へもまゐりて。雇ひとひる人おやりけり。
かゝる駕まに助と云ふに。うておたかえひも。
また女が孝ふれ。頼もよれるものべ。

●同前。今迄の山田屋百吉が老母。いとむねを
人と對張れり。いつも人よ七分の利をとせ。こゝろ
極一女。それ子の百吉と云ふ。母よおや。ま
ければ。づれも善人といふ。まへ人よ。おのゝこ。
己が喰ふや。のゝこ。おや。おや。おや。おや。
るふ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。

●同前。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。

●同前。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。

同不小侯村れと云ふ事。老母よつかつて孝ん係かり
 けり。八本村の惣太徳つと云ふのげより、^{おつと}仲信^{なかつみ}て得^えけり。ま
 と云ふ事ありてもなれて。孝なりとぞや。おやがえなりと
 いへければ。ぜんはべかりてかゝんとや。そこはあ
 る母よとぞ。ぐれりやとぞ。いふ。同^お。老母とぞ。かくていふ。
 と云ふ事。お心。さうぞ。いふ。ある。りもいふ。年^{とし}来^き余^あ
 か。より。いふ。他^{ほか}不^ふ。ある。よ。必^{かならず}と。な^な別^{わか}れ。と。つげ。おハ一^{ひと}敷^{しき}
 も他^{ほか}の。お。止^{とど}宿^{しゆく}。と。な。今^{いま}年^{とし}と。お。歳^{とし}なれど。母れん
 にか。お。お。妻^{つま}の。ら。た。ん。に。悔^{くや}も。お。ひ。ち。と。て。

世 同国言は城下は様町は若名屋小き傳とて志あり
 それ子は若き時とて十四歳のときあり。若き時孝
 志ふかく。あむかりも父母れ令はしきど。その母は姪

して養ふれざる時。あをみみて妹は新様とけり
これよかたき。何くれよまめく。一見ききて人よ称譽せ
られけりとなん。

●同所様町税商人飛騨。母と姉とにうかつて。
孝順の心をつくしけり。姉不幸にして世をいざせし
後。人ありて毒をむかひて死なれど。母の仇をいり
らんものむくたしんよ悔ふもかひを。一とてうけひ
かび。さうよ下野国主は。宿は忠孝の志をいざ
しやどと母をいゝめたる女あり。人かれ女は飛騨がう
とかたりければ。それ玉孝を感ず。いくぞ肝煎しとて

ふよ。やがて嫁してまぬよけりとなん。

●同所の佐田屋小左衛門。つもの姫お人むたり。姉ハサ姫。
妹ハサ七氣にて。いづれも孝悌の心ふかりけり。文化十二
年八月。大西月日あり。が。田里はがり隔たれ
里の伯母病危。とて。姉妹よりあへび面を。一に
て母をむけけり。竹本様たるううて。るを。さだ。雨風
面をむくべか。さる。うびつおとつ。て廿町ばかり
何ゆみけり。さう。う。一人は男。追つて。
か。むつか。た日。何。あ。る。ち。た。ま。二
人。さ。う。い。け。れ。ば。い。そ。れ。志。を。い。で。我。の。ま。

れをいつひれ^{いんげん}茶^ちの^の人^{ひと}た^ため^めは^は古^こ河^がよ^よけ^けか^かゑ^えと^と
 夫^それ^れ弱^{よき}き^きに^にて^て今^いう^うに^に里^り解^{かい}れ^れた^たり^りつ^つか^かゑ^えた^たま^まい^い
 ん^んと^とか^かき^きま^まう^うま^まげ^げて^てお^おも^もた^たま^まう^うと^とよ^よゑ^ゑた^たま^まう^うに^に
 ち^ちと^とべ^べー^ーと^とお^おも^もて^てい^いひ^ひて^てお^おも^もて^てお^おも^もう^うた^た
 ま^まは^はも^もれ^れう^うと^とか^かう^うり^りや^やが^がて^て馬^{うま}を^をい^いふ^ふ。姉^{あね}所^{どころ}
 い^いと^とつ^つか^かれ^れた^たま^まう^うけ^けい^いた^たも^もれ^れば^ばこ^この^の馬^{うま}は^はの^のり^りた^たま^まう^う。
 妹^{いもうと}所^{どころ}は^はも^もと^とり^りて^てお^おも^もう^うて^てん^んと^とて^てま^まう^うけ^けい^いと^とう^うり^り
 け^けい^いけ^けて^てか^かれ^れ伯^{とく}母^ぼの^のお^おも^もう^うり^りぬ^ぬ伯^{とく}母^ぼ病^{やまい}中^{ちゆう}に^に二^に人^{にん}は^は
 お^おも^もて^てか^かみ^みは^は涙^{なみだ}を^をく^くれ^れけ^ける^るや^やど^ど。か^かれ^れお^おも^もう^うこ^こー^ー男^{おとこ}い^いづ^づ
 ち^ちと^とお^おも^もう^うり^りび^びと^とり^りに^にけ^けり^り。二^に人^{にん}の^のま^まは^は健^{けん}勝^{しょう}と^とい^いふ^ふか^かり^りー

め^めの^のま^まう^うこ^こゆ^ゆれ^れと^とお^おも^もい^いた^たま^まう^う。こ^この^の二^に人^{にん}が^が孝^{こう}悌^{てい}れ^れん^んと^とま^ま
 神^{かみ}々^々で^でお^おも^もい^いた^たま^まう^うて^てか^かみ^みは^は男^{おとこ}ー^ーて^てお^おも^もう^うた^たま^まう^うを^をい^いく^く
 い^いや^やい^いま^まう^うこ^こゆ^ゆれ^れと^とお^おも^もい^いた^たま^まう^う。

同^{どう}所^{しょ}は^は只^{ただ}利^りを^をお^おも^もう^うき^きし^して^てい^いふ^ふま^まあり^り。お^おも^もう^うこ^ころ^ろに^にて^てお^おも^もう^う
 ち^ちり^りけ^ける^るが^がそ^それ^れは^はか^かみ^みい^いて^て婢^{ひめ}れ^れま^まう^うと^と女^{おんな}忠^{ちゆう}義^ぎの^のい^い
 た^たぐ^ぐひ^ひと^とい^いへ^へり^り。

同^{どう}所^{しょ}は^は和^わ泉^{せん}を^を忠^{ちゆう}孝^{かう}悌^{てい}つ^つが^がお^おも^もう^うつ^つか^かう^うは^はま^まう^うた^たま^まう^う女^{おんな}
 と^とい^いふ^ふ二^に人^{にん}は^は男^{おとこ}女^{おんな}け^けり^り。い^いづ^づれ^れも^も忠^{ちゆう}義^ぎれ^れど^どう^うの^のま^ま
 ー^ー忠^{ちゆう}孝^{かう}悌^{てい}つ^つが^がお^おも^もう^うて^てお^おも^もう^うり^りけ^けれ^れば^ば奴^{やつ}婢^{ひめ}れ^れま^まを^を
 め^めで^でい^いま^まう^うこ^ころ^ろに^にて^てお^おも^もう^うた^たま^まう^うて^てお^おも^もう^うり^りに^にて^てお^おも^もう^うた^たま^まう^う。

同所に又々病といふ者人有り。男子二人也。兄を源
 忠房。弟を熊次郎といふ。其母もいやくせ。後母も
 あり。いふとむかひ。或時熊次郎眼病ともいふ。ひて医
 療此例もあつて。と。後母もいやくせ。一七日れ
 同り食して。神仏はいれりけり。それ忘る。あつて。たゞ
 ちくいえけり。と。二人れ。子づから。父母はよくつかつて
 孝心をつて。後母もいやくせ。と。いふ。

同不此日神皇清々傍が妻ハ孝貞れふいとふかくして。
稱答はづれたるまゝいねふかりとちん。

●同前此小西屋平右衛門といふ所の妻ハ。みよとをたゞ
に負へぬなり。^{ていふ}長月来^{やまひ}病つれていたくもづゝひけり。そ
れ娘はまじきといふあり。あともあみ^{ざんぱら}新倉^{きくら}れり。それ神仏は
いれりけれどさるゝなく。母れ^{やまひ}病いとあやうげに母もせ
はありまづもぐやおがえけん。いゝゝまれどと
心ゆくちがうて。まじき家ぢうらん後ハ。よく父はつか
て孝をつてはづれうゝ玄沙一ひり。すいこれとせな
父上れはるゝいかにもつかへするめいへけれ。心ある
まゝまじきうとも神仏の^{かたりごと}ほろぼしやいほるべ
と。ちがうかくんがそれだすはん。おがーつ

駿河国沼津に宿よ。小谷三志が孝貞れまぢびれ
 社中も介かり。その中又六条より十四又年より廿五男
 女児よ。清水屋源太五郎。伊勢屋忠三郎。江戸屋光五郎。松屋
 春五郎。元向屋乙次郎。虎屋栄ね。沼屋文七。辻屋力藤。成
 安屋三助。永金屋安次。和田与三郎。戸金屋泰次郎。武藏屋要
 助。米屋徳次郎。清水屋も女。沼屋くま女。江戸屋鏡女。江戸屋
 まし女。新井屋ふト女。和泉屋てつ女。版田竹女。江戸屋しよ
 女。相模屋しよ女。戸金屋さん女。米屋さん女。沼屋しよ女。
 宗金屋しよ女。ちどしどれて。多とつとめ。善のりともな
 して。人ともしよめまぢびたけり。またちおれお

に芥澤子種といふ病あり。よくそれ子才を教て。忠孝
 貞信の事とて。此とて。や。ゆゑ。孝志の児輩その門
 に出るものひくまかぢ。す。元向屋伊右衛門が子政は
 弟ハ。いづか。二条の小児なれど。父母よくとて。へ。と。志
 ければ。父は草履をき。て。お。か。け。る。心。す。て。や。さん
 ぶ。さん。ぶ。す。い。け。り。と。さん。それ。お。は。宿。は。秘。参。ん
 ぶ。孝貞忠信の。も。が。お。か。り。と。ぞ。

下総国狭山郡特宿村に政右衛門が妻あり。ハ。同。郡。守。子
 村の妻あり。齒十六れ時政右衛門が妻となりて。祖父。母。父
 母に。孝。れ。ん。と。お。け。り。ま。ほ。と。このみ。放。後。れ。り。

まいおふかるとちげれてさよべにいさめけれどあざ
かりもあつてさび父母これとんちげれてさよべやう。
子をもつたさんよ政を立つが所よりうくたりもこ
そせめ。今より後神社仏閣はまうでたさんともうい必
子何んころと祈りてういひけるよ。うも涙を流
し丹誠をこころしてまればれ上と。子やたんすも
祈り祈り。それよりちかたなりけふ谷三志が門に
入て放縦れ者あまた若人なれるとさうやこい
でまともひめてこ志がとへ子よせまやとゆひ
たりぬ。いさけ政を立つ。こ志がとへさうけておそれ

ろよんとよせバ。あまのめべたよ。二歳まで養見けり。
これはよりて同族半束村の伊太磨つが紹介にて主婦と
めその門より。かをつてなりひとつとめ。おや
やければなとまのり。お母さんといひり。かくて女子
うみて。おむつとさうえけりとなん。

●同国香取郡并る村の越右衛門が娘。うづかに六歳を
れど考ふいとほかりなり。十二歳なる時。母はあつたひ
けるも。母いうてうたんとほまはにげまひてつまづた
ころびり。妹をていさや。母は姉は睡家とせんとの
心ほねど。天よりいさめたまふべし。以後は必

と改て母にあらじいだすふなりといふめけりともぞ。

●同於十六あるれ内れ西代村。並右邊つとて悪業あくごふの事
れとあり。その里れ改た邊つが教よりうて。月も四日づき
とありんとてひかり一が。後ハハ邪く悪業あくごふをやつて。な
りともありんことれと心とやう。その父も並右邊つが悪業あくごふ
とをいひて。他ふよりうつりむけりとも。並右邊つ先那せんと悔く
むくう一。深く善事をとつてけり。又又一ければとて。
長衣ちやういと袴はかま。あま儒にう傳でんとをれとて。農業えいぎやうといふ
みけり。それ子孫ハも父より儒にう傳でんとをれとて。農業えいぎやう
たりといふもとぞつてけり。此里れ後吉まつ。長衣ちやういは助。

孫也。利平才。長七。長者。やうもことな儒にう傳でんのりともつとめ
て。善事もとてけり。又後善傳といふの事いふに。一と
入れよ。此かみは女をとて。一とて。あふふとて。げとせ
りともふん。

●同於西代村の並右邊つが娘まつ。治善傳が子れ善者。よみ
き傳が子れ並善。改た邊つが娘の十一集れらく。九集れひで。
やうとて。いづれ。治善傳と右邊つ。九集。仁善傳。改た邊。やみ善。
おと助。右邊つ。伊助。ひよ女。つね女。いと女。とみ女。てい女。とめ女。
とめ女。さつ女。くに女。せん女。すゑ女。げん女。たつ女。しらいつれも
善傳けふ。いづれ。おふやけの治善とて。やうも善人なり。

といへり。此西代村ハ水々として。あふせぐ堤あり。それ堤レ
名ササみろそこをそれたり。文化十二年ハ太平二百
年レ沙羅^{ごらん}むくいならんためとして。男サハ人女ハ人として
築^{つと}ぬ。けり。村長^{むらぢ}これを案^{あや}して。林^こ酒代^{さけしろ}令^{しる}るさあけ
り。やがてそれ令^{しる}て。竹本と案^{あや}それへ。并^なはれ橋^{はし}れこ
かれ。とつくりひとをさめ。又村内に辻^{つみ}杭^かまで。使^{つか}まのく
れ使^{つか}まをなへけりとなん。

●同不^なれ并^な考^{かう}れ名^なを邦^{はう}。妻^{つま}れがん。ともし孝^{かう}貞^{てい}れ志^し深^{ふか}く。
共^{とも}に養^{やしな}母^{はは}よりつうて。おやのけがなをさるる善^{ぜん}人^{ひと}な
りといへり。

●同郡^{ぐん}押^{おし}砂^{すな}村^{むら}れ七^{しち}井^い右^{みぎ}衛^ゑつが下^{しも}男^{おとこ}は。侍^{さむらい}義^ぎといふのあり。た
心^{こころ}くよとくれて。妻^{つま}れるは農^いるをさげむけり。又田^でれあ
り。あけり。それ人の差別^{さべつ}す。あれゆめぐらふやに
ふ用^{もち}て。村^{むら}内^{うち}に。を他^{ほか}ちん。とをねがう。或^{ある}人^{ひと}
これをあて。他人^{たにん}の田^でれあすで。心^{こころ}くざりひる。この男^{おとこ}
かた。と。ひひれども。は。お耳^{みみ}も。ひいれび。これハこれ国^{くに}
君^{きみ}。名^なを。ん。あ。それ人の田^でと。を他^{ほか}ちん。とを
ねがう。と。い。よ。志^しを。改^{かへ}め。び。となん。

●同村^{むら}れ柳^{やなぎ}を。池^{いけ}。あ。それ妻^{つま}と。今^{いま}井^い次^じ村^{むら}より。びむかい。と
せぬ。名^なと。い。よ。女^めといへり。孝^{かう}貞^{てい}れ心^{こころ}う。く。父母^{ふぼ}より。



